



無痛分娩について

(分娩時鎮痛)

東北大学病院 麻酔科

はじめに

無痛分娩の目的は、安全な分娩を提供することです
(分娩時鎮痛)

状況によっては 完全な無痛を達成できない場合もあります

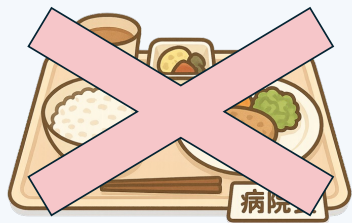
もちろん快適な分娩環境を目指します！



大まかな流れ

麻酔当日

食止め



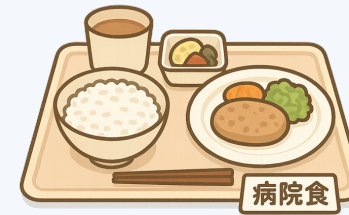
ベッド上安静



分娩



食事開始



歩行開始
目標



麻酔開始

麻酔終了
カテーテル
抜去

麻酔中のルール

■ 麻酔中はお食事できません

水・お茶・スポーツドリンク等の脂肪を含まない飲料は摂取可能です

■ ベッド上で安静にさせていただきます

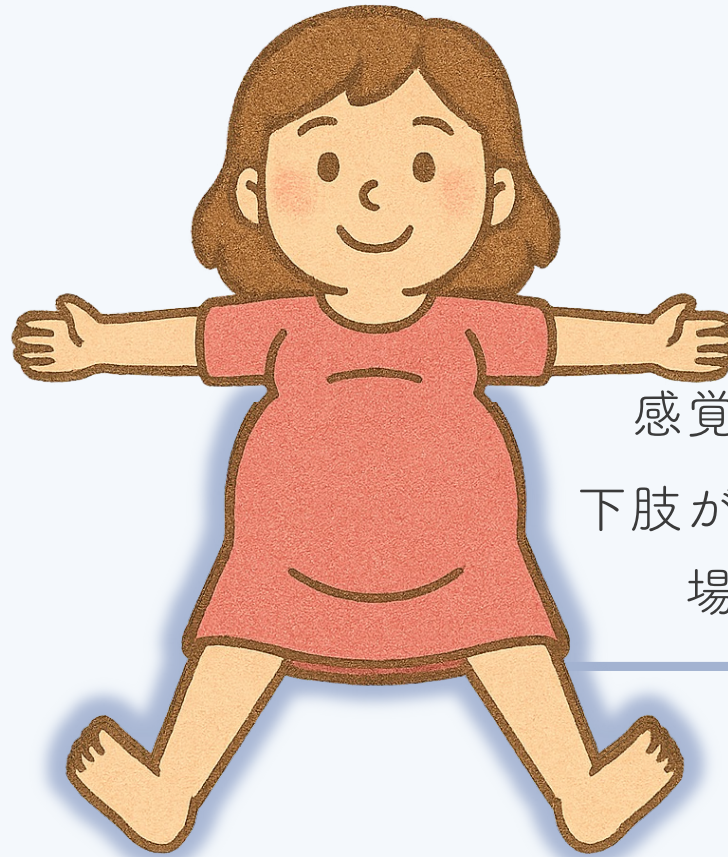
麻酔中は歩行および入浴はできなくなります



麻酔の方法

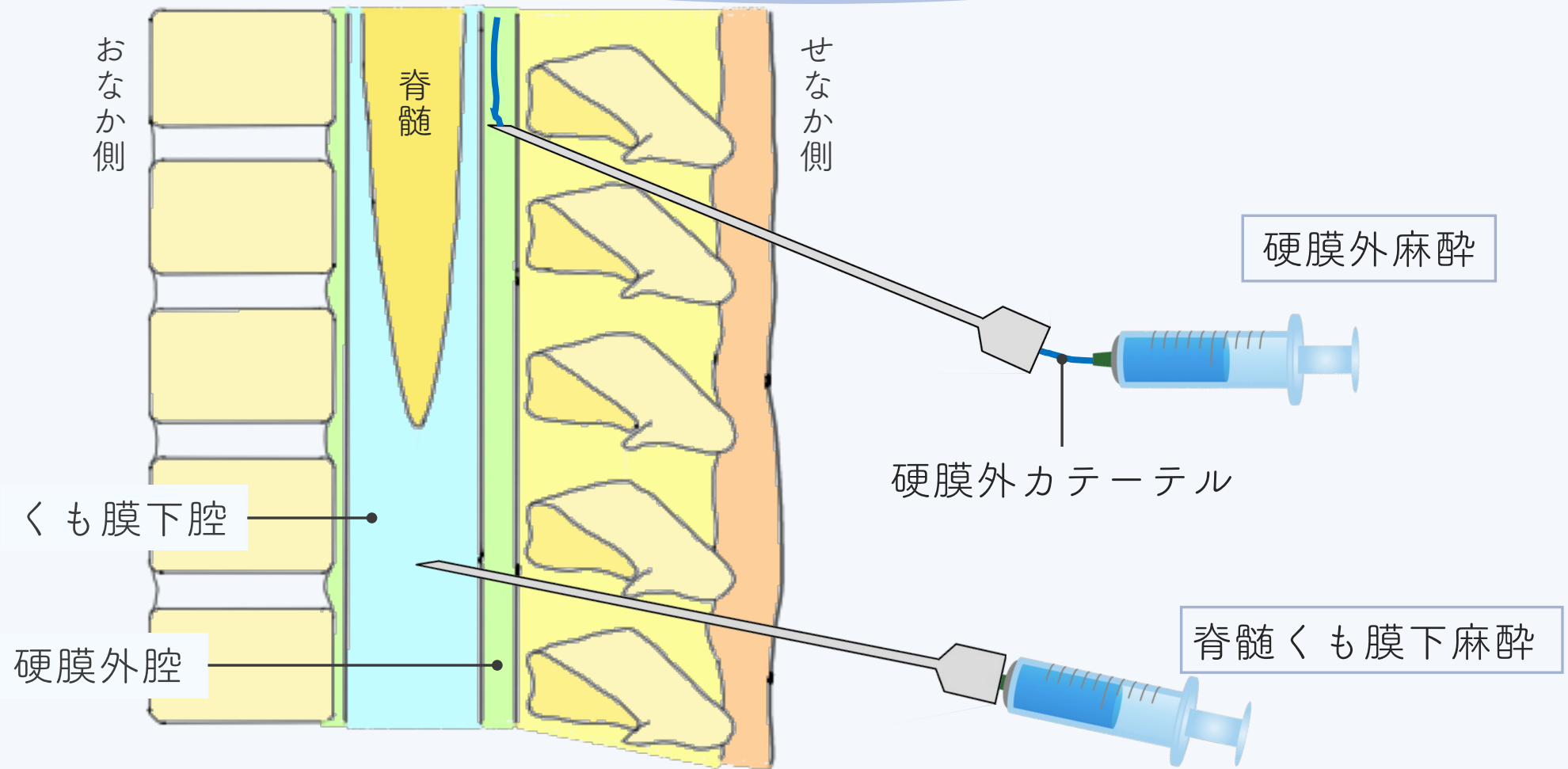
① 脊髄くも膜下麻酔

② 硬膜外麻酔



感覚が鈍くなります
下肢が動かしづらくなる
場合があります

麻酔の図



麻酔の維持

1時間に1回必ず痛み止めが入ります



痛み止めを入れる機械：
持続硬膜外ポンプ

自分の好きなタイミングで
痛み止めを追加することもできます

(安全管理上、投与間隔に制限はあります)

分娩の進行に合わせて
麻酔科医が濃度や量を調整します

麻酔によるメリット

■ 痛みが緩和できる

- ▶ 身体的そして精神的に苦痛を和らげる効果があります

■ 赤ちゃんの状態を良好に保つ

- ▶ 鎮痛による子宮胎盤血流の改善
胎児ストレスの軽減



麻酔によるメリット2

- 診察や処置が楽になる

- ▶ 陣痛だけでなく，診察などに伴う痛みも軽減されます

- 帝王切開術への移行がスムーズ

- ▶ カテーテルからの痛み止めを追加することによって手術することも可能です

- （状況に合わせて麻酔方法は都度お伝えします）

麻酔によるデメリット

- 分娩にかかる時間が長くなる

- ▶ 自然分娩に比べ、平均で1-2時間程度長くなります

- 吸引・鉗子分娩の可能性が高くなる

- ▶ 赤ちゃんを出す力が少し弱まり
お手伝いが必要になるかもしれません

麻酔によるデメリット2

■ 硬膜外関連発熱

- ▶ 硬膜外腔にカテーテルを入れてから数時間経つとお母さんが発熱することがあります.
- ▶ 必要に応じて採血検査などが追加されるかもしれません

■ 赤ちゃんの一時的な心拍異常

- ▶ お母さんの低血圧に伴って、赤ちゃんの心拍異常が起こる可能性があります. 多くは一過性です

麻酔によるデメリット3

■ 麻酔手技関連の合併症

- ▶ 硬膜穿刺後頭痛
- ▶ かゆみ
- ▶ 排尿障害，下肢の神経障害
- ▶ 局所麻酔中毒
- ▶ 感染・硬膜外膿瘍
- ▶ アレルギー：アナフィラキシーショック

注意事項

■ 麻酔ができない場合もあります

- ▶ 薬や妊娠経過に伴って血小板・凝固機能に異常がある場合
- ▶ 有症状の脳脊髄疾患がある場合
- ▶ 麻酔をする場所の皮膚や皮下に異常がある場合
- ▶ 麻酔をする場所が手術を受けたことがあり、
麻酔が難しい場合（要相談）

注意事項

■ 麻酔した日に分娩に至らない場合もあります

▶ 産科医と相談して、夕方に麻酔を中止する場合があります

▶ 麻酔中止後、夜間に陣痛がきてしまった場合にも
担当麻酔科医が対応いたしますが、
到着が間に合わない場合もあります。ご了承ください

■ 分娩状況により帝王切開術になる場合があります

終わりに

皆さんのお産をサポートできるように頑張ります！

質問・相談がありましたらいつでもお声がけください！

